

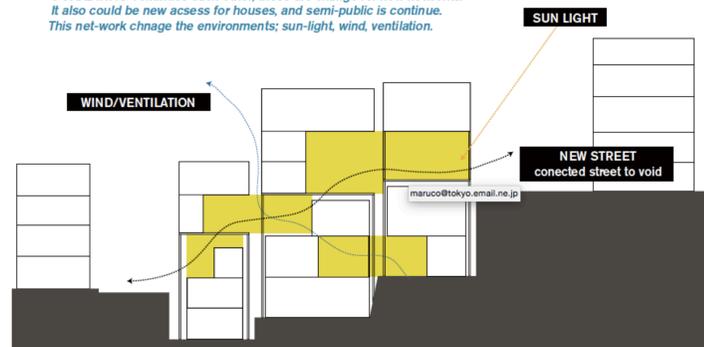
## 次世代居住都市

Research Unit: Next-Generation Urban Habitats



ファベールの都市形態(左スケッチ)と横浜戸部の都市組成を密度や建物形態から比較研究

PUXADINHO continues each other, these are change for new networks.  
It also could be new access for houses, and semi-public is continue.  
This net-work change the environments; sun-light, wind, ventilation.



高密度で乱立する住まいにヴォイド(空白)を明け、風通しや日光を通す提案。ヴォイドが連続していくことでファベールのアーティキュレーションが変化し、まちに新たな活力が生まれる。

**住み手による創造的な住環境”Creative Neighborhoods”をテーマに、ブラジルのファベールと東京の木造密集地域を対象に調査。現代都市に求められるSpace of Commonsの考察と提案。**

### ■スイス連邦工科大学、カトリカ大学リオデジャネイロ校と「高密度居住環境」について共同研究

2015年7月28日～8月5日の間にスイス連邦工科大学よりライナー・ヘル氏、カトリカ大学リオデジャネイロ校よりナンダ・エスクス教授を講師として招聘し、共同研究を行った。ブラジルのリオ・デ・ジャネイロのファベール(スラム)を対象エリアにSpace of Commonsの研究と課題(インフラ、教育、居住)を解決する提案を作成した。9月15日より2週間ほど、リオデジャネイロに滞在し、継続した研究を行う予定である。最終的には、日本の木造密集地域などに方法論を応用し、有効性の検証を行う。

## ユニット・メンバー

主任研究者  
共同研究者  
連携研究者

北山 恒 教授  
佐土原 聡 教授、野原 卓 准教授  
織山 和久 IAS客員教授  
連 勇太朗 IAS客員助教  
寺田真理子 研究戦略企画マネージャー

研究協力者



### 北山 恒

1950年香川県生まれ。横浜国立大学大学院修士課程修了。1978年ワークショップ設立(共同主宰)。1995年横浜国立大学助教授、同年architecture WORKSHOP設立主宰。2001年横浜国立大学教授、2007年より同大学院Y-GSA教授。現在横浜市都心臨海部・インナーハーバー整備構想や、横浜駅周辺地区大改造計画に参画。2010年第12回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展・日本館コミッショナー。2002年「公立刈田総合病院」(共同設計、日本建築学会作品選奨・日本建築家協会賞)、2006年「洗足の連結住棟」(日本建築家協会賞・日本建築学会賞)、2010年「祐天寺の連結住棟」(日本建築学会作品選奨)ほか作品多数。

## 最近の業績リスト

- ・第12回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展  
日本館コミッショナー (2010年)
- ・『都市のエージェントはだれなのか』  
(著書/北山恒:単著、TOTO出版、2015年8月)
- ・『『建築』概念の更新と『フィールド』の発見』  
(論文/北山恒:単著、『新建築』、新建築社、2015年3月)

横浜国立大学 先端科学高等研究院

Institute of Advanced Sciences, Yokohama National University



Institute of  
Advanced Sciences  
Yokohama National University